

2000万円から始める システム用蓄電池投資



想定利回り
約**15%**



最小投資額
2000万円～

「まずは条件だけでも確認したい」でもOK

※本資料は投資判断のための概要資料です。利回り等は前提条件により変動します。
詳細は個別相談でご案内します。

無料相談のご予約はこちら



系統用蓄電池投資とは？ ～1分でわかる仕組み～

✓ 何を所有するのか

蓄電池ユニット（共有型の場合は持分）を所有します。太陽光発電のように「発電」するのではなく、電力の調整役として報酬を得るビジネスです。

✓ 何で稼ぐのか

JEPX
Japan Electric Power Exchange

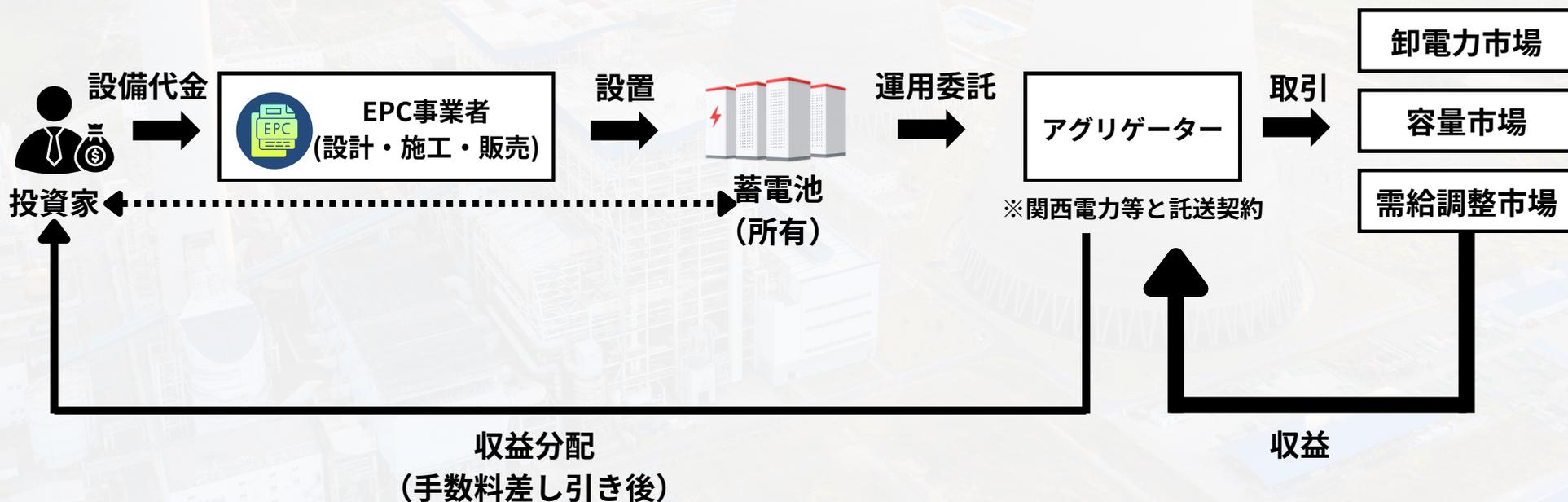
卸電力市場：安い時間に充電 → 高い時間に売電（価格差益）

OCCTO

容量市場：電力を供給できる「準備」に対する固定報酬

EPRX

需給調整市場：電力の需給バランス調整への貢献報酬



なぜ今、蓄電池投資なのか ~他の投資商品との比較~

投資比較で見ると、『投資額が高く』、『利回りが良い』のが系統用蓄電池。
 現物資産でありながら、運用の手間がかからない点も大きな特徴です。

| | 不動産 | 株式 | 国債 | 売電太陽光 | 系統用蓄電池 |
|--------|---|---|---|---|---|
| |  |  |  |  |  |
| 投資額 | × 約1,000万円～ | ○ 小額からでも可 | ○ 小額からでも可 | × 約1,000万円～ | × 約5億円～ |
| 利回り | △ 5～8% | △ 不特定 | × 0.1～2% | ○ 9～12% | ◎ 15～25% |
| 期間 | △ 物件状況次第 | △ 不特定 | △ 満期で終了 | ◎ 20年間 | ◎ 約20年間 |
| 安定性 | △ 入居者に左右 | × 経済状況に左右 | ○ 最も安定 | ○ 固定価格買取 | △ 電力市場取引 |
| 運用の難易度 | △ 外部委託は可能 | × 素人危険 | ◎ 容易 | ○ O&M | △ 外部委託先次第 |
| 総合評価 | △ | △ | △ | ○ | ○ |

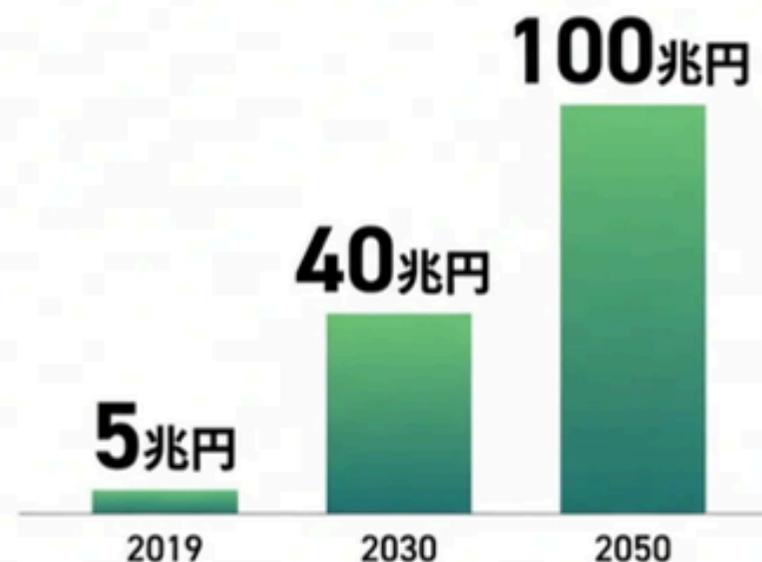
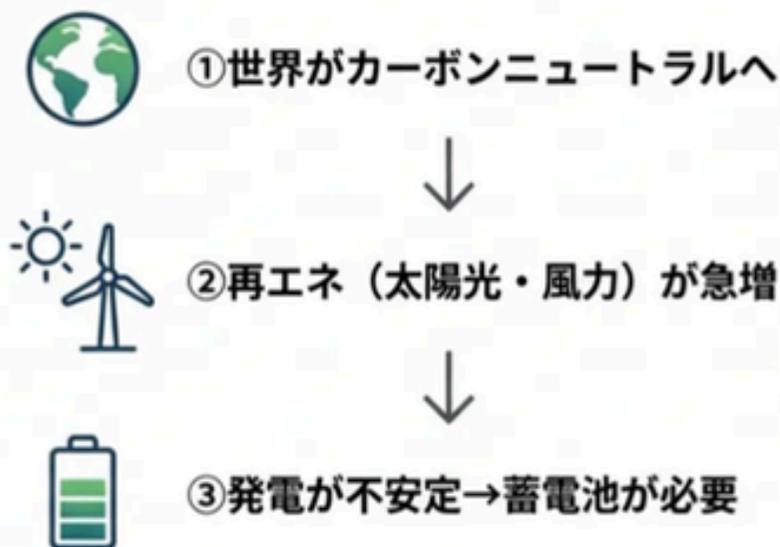
なぜ今、蓄電池投資なのか ～太陽光の「次」として注目される理由～

脱炭素の流れを背景に再エネ導入は世界的に加速しています。

その一方で発電量の不安定さという課題があり、それを吸収し電力価値を高める役割を担うのが蓄電池です。

蓄電池市場は今後も拡大が見込まれる成長インフラ分野として注目されています。

世界で急成長する蓄電池市場



約30年で20倍、2050年に100兆円市場へ

なぜ今、蓄電池投資なのか ～日本でいま、投資機会が生まれている理由～

世界的に再生可能エネルギーの導入が進む中、日本においても太陽光発電は急速に拡大してきました。その結果、電力の需給バランスや価格変動といった課題が顕在化し、これを調整する蓄電池の役割が、今まさに重要性を増しています。こうした背景から、日本でも新たな投資機会が生まれています。

日本でも今、投資チャンスが生まれている



① 太陽光が12年で10倍に急増 (5.6GW→73GW)



② 昼は電力が余り、夜は足りない



③ 昼夜の価格差が5倍に拡大 (4円→20円)



④ この価格差で稼げる → 大手も続々参入

でも、大手は特別高圧 (2MW以上) = 大規模に集中

高圧クラス (2MW未満) は"数"が必要

**ここに投資家の
参入機会がある**

- 接続申込が1年で6倍 (1,599件→9,544件) = 市場が急拡大中
- 国の2030年目標：14～24GWh

3つの市場で安定収益 ～調整役としての報酬を複数の市場から得る～

卸電力市場・容量市場・需給調整市場という

性質の異なる3つの市場を組み合わせることで、定期的に得られる収益と、状況に応じた追加収益を両立し、安定性と収益性をバランスよく確保しています。

3つの市場で安定収益

運送会社の経営に例えると分かりやすい

卸電力市場

 安い時間に充電
→ 高い時間に売電

 運送会社で例えると：
繁忙期は料金UP、閑散期は安い

 特徴
需給で変動する収入



容量市場

 電力を出せる「準備」への固定報酬

 運送会社で例えると：
企業との年間契約（トラック確保の固定契約料）

 特徴
★安定収入の柱

需給調整市場

 電力会社の指示で動いた分の報酬

 運送会社で例えると：
急ぎの特急便対応（追加料金）

 特徴
追加のボーナス

定期便契約とスポット便を組み合わせるように、複数の収益源で安定した収益構造

収益性と社会的意義を両立

利回りだけでなく、

「どんな価値を生み出す投資か」を重視する動きが広がっています。

系統用蓄電池は、電力の安定供給を支えながら、

中長期的なリターンを目指せる投資として注目されています。

短期的な値動きだけを追うのではなく、社会に必要とされ続ける仕組みに投資することで、中長期的なリターンを目指す考え方です。



CASE1

成長市場で 利益を得たい方

- ・急成長するサステナブル分野に投資
- ・長期的な資産増加を目指す
- ・市場の拡大期を捉える



CASE2

収益性と環境貢献を 両立したい方

- ・地球環境に配慮した投資
- ・社会的インパクトとリターンを追求
- ・倫理的な資産形成



CASE3

手間をかけずに 資産運用したい方

- ・専門家による完全お任せ運用
- ・自動化されたポートフォリオ管理
- ・日々の管理負担を軽減

系統用蓄電池への参加方法

系統用蓄電池投資では、小口から参加できるモデルと、施設全体を所有するモデルの2つの選択肢をご用意しています。

投資目的やリスク許容度に応じて、最適な参加方法を選ぶことが可能です。

分譲モデル（1ユニット～）

蓄電池を1ユニット単位から投資

蓄電池スペック：215kwh/ユニット
 販売価格：2,000万円
 表面利回り：12.0～15.0%
 実質利回り：9.0～11.0%
 事業期間：17年
 収益/年：270～300万円

- 用地はMARKSで用意
- 1ユニット以上所有
- 充放電容量で収益
- 保守管理はMARKS

1オーナーモデル（施設全体）

蓄電池・土地をまるごと所有

蓄電池スペック：AC1,999kw/8,140kwh
 販売価格：6億5,000万円
 表面利回り：16.5～19.0%
 実質利回り：12.0～13.0%
 事業期間：17年
 収益/年：8,500～9,500万円

- 用地はMARKSで用意
- 蓄電池、土地を所有
- 市場取引で収益
- 保守管理はMARKS

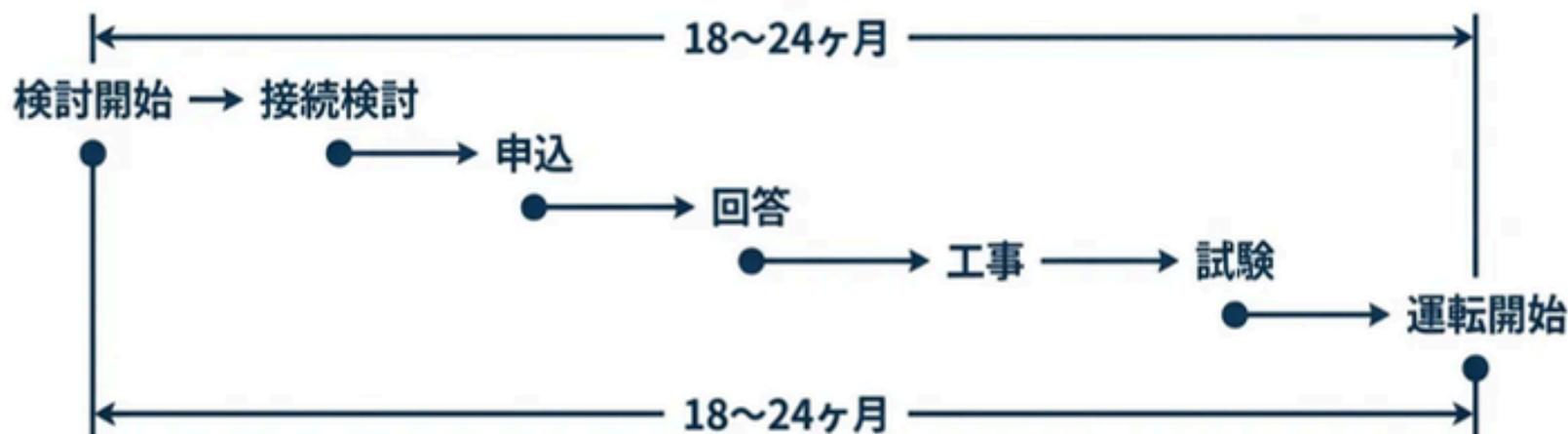
※詳細な収支シミュレーションは、個別相談にてご案内いたします。

※利回り・収益は前提条件により変動します。

なぜ「今」動くべきなのか ～検討開始から運転開始まで～

系統用蓄電池は「欲しい」と思ってもすぐには稼働できません。系統連系の手続きや工事工程があるため、一定のリードタイムが必要です。

なぜ今動くべきなのか



系統の空き容量争い 

遅れるほど不利 

用地確保済み 

検討開始が早いほど、運転開始も早くなる

なぜ「今」動くべきなのか ～検討開始から運転開始まで～

早い者勝ちの理由

1. 系統の空き容量争い：全国で加速中。条件の良い場所から埋まっていく
2. 遅れるほど不利：利益を得られる期間が短くなる
3. 接続検討済み用地：事前に用地を多数確保

申込 95GW vs 稼働 170MW 必要とされているのに、全然足りない

通常の場合

- 接続検討申込 → 回答まで半年～1年
- 契約 → 工事 → 運転開始

➡ 収益を得るまで 18～24ヶ月

今回ご紹介する案件

- ✓ 接続検討 完了済み
- ➡ すぐに次のステップへ

↓ 収益を得るまでの時間を大幅短縮

早く始めた人が、早く収益を得る

需給調整市場の上限価格見直しの方向性

需給調整市場の一次調整力（一次・二次①・複合商品）について、2026年度以降の制度として、入札上限価格を 19.51円/ΔkW・30分 から 15円へ引き下げる案が経済産業省の制度検討の中で示されています。

なお、当初検討されていた 7.21円案は採用されず、事業者の予見性を確保する観点から 15円案に整理されています。

需給調整市場：上限価格の段階的引き下げ

15.00
円/Δkw

第1段階

現時点で想定される基本水準

まずはこの価格からスタートし実績を確認しながら次段階の可否を判断

10.00
円/Δkw

第2段階

条件付きで検討される次段階

モニタリング（応札状況・価格分布）の結果、競争が不十分と判断されれば移行

7.21
円/Δkw

第3段階

制度上の最終的な想定水準

さらに、競争改善が見られない場合の最終的な引下げ目標値



事業者の収益性への配慮

急激な収益変動を回避するため、価格見直しは段階的に実施する。

また、競争環境が十分に形成されている（応札が十分に集まっている）と判断された場合には、これ以上の価格引き下げは行わず、必要に応じて募集量の拡大により調整を行う。

よくあるご質問

Q1: 最低投資額は？

A: 分譲モデル2,000万円～／1オーナーモデル
6.5億円～

Q2: 用地は自分で探す必要がある？

A: いいえ。弊社でご用意します。接続検討済みの
物件情報をご提示します。

Q3: 蓄電池の寿命は？

A: 法定耐用年数17年。一般的に15～20年（充放
電回数・気候等による）

Q4: 収益はどうやって得る？

A: 3つの市場（卸電力・容量・需給調整）から
収益を得て、運用手数料・経費等を差し引いて
精算。

Q5: 電気代高騰の影響は？

A: プラスに働く可能性が高い（売電価格上昇に
より差益拡大）

Q6: アグリゲーターとは？

A: 電力の需給調整を行う専門事業者。充放電を
自動制御（投資家の操作不要）

Q7: 保守管理は？

A: 定期点検はメーカー・専任業者、法定点検は
外部の主任技術者が対応。

Q8: ランニングコストは？

A: 運用手数料・O&M・保険・償却資産税等。

Q9: 途中売却は可能？

A: 譲渡は可能。手続きについては個別にご案内
します。

Q10: 市場価格下落リスクは？

A: 変動あり。ただし調整力需要は増加見込み。

Q11: 故障・災害時は？

A: 火災保険・機械保険で対応。

株式会社MARKSについて～施工・造成から電気工事までワンストップ～

施工件数

1,762件

施工実績

210,568kw

工事～運用まで全てお任せください



用地選定



設計・部材調達



造成・地盤改良



埋設配管・ケーブル敷設



電気工事



O&M (運用・保守)

接続検討済み用地を多数確保

全国各地で、すでに電力会社との接続検討が完了した用地を確保しています。「用地探し」「系統連系の枠確保」という最も難しいハードルをクリア済みです。

お問い合わせ

まずはお気軽にご連絡ください。



- ☎会社直通
- ☎担当者直通
- ✉メールアドレス
- 🌐会社ホームページ

※オンライン相談も対応可能です